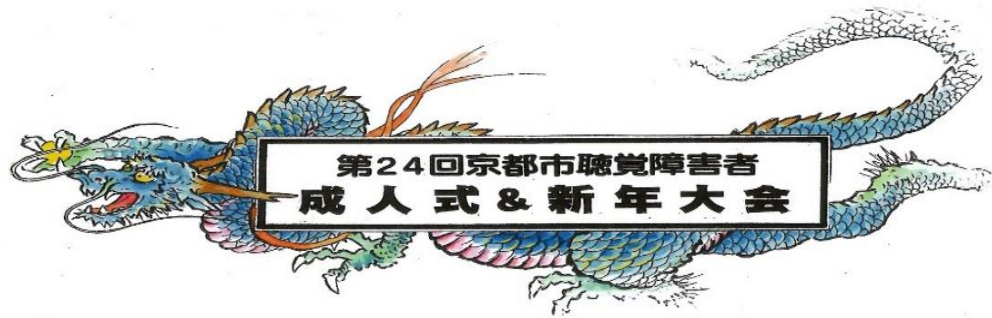




みみずく通信

京都市手話学習会「みみずく」
本部機関紙部発行
会長 石神 博行
事務局 FAX075-812-6112
みみたん通信 第59号
<http://www.mimizuku-kyoto.com>
2024 年 3 月 1 日発行



2024年1月7日(日) ひと・まち交流館を会場に、第24回京都市聴覚障害者成人式&新年大会が開催されました。

第1部は式典・成人式。本来おめでたい場ではあるのですが、挨拶の中では、この1月1日に発生した能登半島地震により亡くなられた方々への哀悼の言葉が述べられていました。それでも、成人式には今回20歳になる新成人お二人が会場に来られており、元気に抱負を語られていたのは頼もしい限りです。

第2部の新年大会では、写真コンクール表彰式、クイズ大会、アトラクション「阿波踊り」が行われて、非常に楽しく過ごすことができました。

ここ数年、コロナウイルスの感染拡大により、開催が中止されたり、人数が制限されたりしておりましたので、久しぶりに制限無し開催がされたことが何よりも喜ばしいことでした。

京都市手話学習会「みみずく」会長 石神 博行



目次

- | | |
|--------------------------------|----------------|
| 1・・・第24回成人式&新年大会 | 9・・・第50回耳の日集会・ |
| 2・・・第19回写真コンクール | 京の手話体感学習会 |
| 3・・・第20回さかの映画祭・第19回京都手話フェスティバル | |
| 4・・・レインボー3 学習会 | 10・・・能登半島地震支援・ |
| 5～8・・・活動助成金報告 | 行事予定・編集後記 |
| 8・・・第40回近畿手話通訳問題研究討論会 | |



1月7日(日)ひと・まち交流館にて「第19回写真コンクール」の展示及び表彰式が行われました。

応募総数 63 点(応募者数 36 人)から「聴覚障害者の部」「手話関係者(協賛団体を含む)の部」に分け、それぞれ金・銀・銅賞の計6作品が選ばれました。

写真を学ぶという事は、ただ良い写真を撮るだけでなく、皆さんとその写真についてお話したりする事でより豊かで楽しい日々になると、全日本写真連盟関西本部委員の清水直行氏は講評で述べられていました。

なお、全ての作品が全国手話研修センター1階ギャラリーにて2月1日(木)～2月24日(土)まで展示されました。

入賞者は下記の通りです。

北支部 石神博行

聴覚障害者の部	金賞「色とりどりの雨傘」	福村賢二(市聴障協北支部)
	銀賞「どんどこ焚き後の楽しみ」	福村三代子(市聴障協北支部)
	銅賞「天理の夜桜」	石井 正(市聴障協山科支部)
手話関係者(協賛団体含む)	金賞「大空に〇」	安倍正明(協賛団体)
	銀賞「ひとやすみしよか」	竹井友子(みみずく中京支部)
	銅賞「鳩の賀茂川端会議」	大西みどり(みみずく北支部)

第19回写真コンクール、手話関係者の部で銀賞に選ばれました。

みみずく会創立60周年記念のバスツアーで近江八幡に行った時の写真です。

ろう者の辻さんと聴者の鶴来さんが二人仲良く座って休憩している様子がほほえましく、スマホで撮影しました。

60周年記念事業にかかわった立場として、思い出がまた一つ増えてうれしい限りです。来年も応募予定ですので、今からたくさん写真を撮りためます。

中京支部夜の部 竹井友子

第19回写真コンクール、手話関係者の部で銅賞に選ばれました。

犬の散歩中に賀茂川の辺りを歩いていると、5羽の鳩が可愛く手すりに並ぶのを見つけました。ジョギング・ウォーキングの人や自転車も全く居なかったので、これはシャッターチャンスとスマホで撮った1枚です。何の気無しに撮った写真で銅賞をいただき驚いています。

北支部 大西 みどり

第20回さがの映像祭開かれる

2月11日4年ぶりに対面でさがの映像祭がヒューリックホールで開催されました。200人定員のホールは満員で、当日参加もことわらなければいけないくらい、盛況で久しぶりの対面開催をみなさんが待ち望んでいたことが感じられました。

内容も盛りだくさんで深川勝三氏生誕100年記念企画、シネマトークでは深田晃司監督と今井ミカ監督の対談、そして今年の映像作品コンクールはたくさんの応募があり、大賞も発表されました。去年はありませんでした。



最後に「ジンジャーミルク」という、ジェンダーを取り上げた作品が上映されました。オンラインでも開催はされていたのですが、映画はみるということができないということでした。

20周年という記念にふさわしく、にぎやかな映像祭りが開催できてよかったと思いました。

右京支部 徳永康子

一般部門 大賞 横尾友美 優秀賞 井上ミョンジュ 奨励賞 ルディー・オー・ランディーニ
感謝状 伊藤徹也（第1～20回まで全回出品に対して）
学生部門 優秀賞 愛知大学・上田謙太郎・上田真綾・中島謙
奨励賞 明晴学園小学部・阿部桜子
深川勝三・睦賞 那須元紀

第19回京都手話フェスティバル

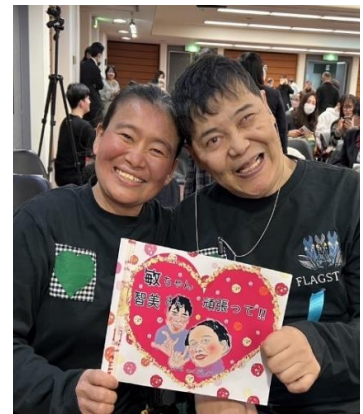
1月28日、京都新聞文化ホールにて第19回京都手話フェスティバルが開催されました。

手話スピーチに出場の皆さんは、緊張感漂う中で、練習と努力の成果を発揮し、表情豊かに堂々と発表されていました。

山科支部からは野村敏和・智美夫妻が出場しました。夫婦の出会いについて、一つの手話を二人の手で合わせて表現し、仲睦まじい様子があふれていました。

表し方や表情で、こんなにも言葉が心に響くのは、手話の魅力だと感じました。

また、手話パフォーマーKAZUKIさんの視覚と身体を使ったパフォーマンスも楽しみました。



寒さ厳しい折でしたが、感動と笑顔で心あたたまる一日になりました。

山科支部夜の部 佐々木知佐



一般の部 最優秀賞 清寺真由実（手話講座受講生）
優秀賞 種村光太郎（宝塚市・大学院生）・櫻井恵（みみずく南支部）
京都新聞社会福祉事業団賞 馬場直子（亀岡手話サークル年輪の会）
高校生の部 最優秀賞 北田ラク・齋藤璃恩（府立京都八幡高南キャンパス）
優秀賞 山下心優（府立京都八幡高南キャンパス）



2月 14 日(水)京都市聴言センターにて「レインボー^{さん}3」の学習会が開催された。参加者は 41 人(オンライン参加者11人を含む)。講師は京都聴覚言語障害者の豊かな暮らしを築くネットワーク委員長の高山正紀氏を迎えて市ネットワーク委員会主催で開かれた。

2022 年～2027 年までの 5 年間で、京都における聴覚障害福祉の今後のあり方との方策について、このネットワーク委員会を構成する各団体から出された要望や意見を集約した冊子(200 円)を中心に話が進められた。

この 5 年間で達成していくための「道しるべ」が、5つの項目にまとめている。その中の項目 2 つを中心に話が進められた。

一つ目は「啓発活動」社会に求めていくこと、二つ目は「制度の充実」社会全体に制度として求めていくこと。

コロナ感染症がひろがっている中で、透明マスクの必要性、なぜ必要なのか、一般のマスクでは口形はもちろん表情がわからない。障害者が利用する役所や施設・病院・職場・食堂(レストラン)・お店などに働きかける。健聴者の中には、お化粧が崩れる、暑苦しいといったデメリットの訴えもあるが、これは私たちへの認知の低下である。

京都市では小学校での総合学習が、年 1 回行われているが、手話の獲得という点では無理がある。週 1 回の英語学習並みに手話の学習もできないものだろうか、といった興味深い話もあった。

制度については、耳に障害があっても福祉サービスが受けられる、受けられないといった壁。WHO(世界保健機構)では、聴力 40 デシベルから障害者と認めているが、わが国では 70 デシベルからで、69 デシベルでは障害者としては認定されず、医学モデルとしてではなく、社会モデルとして補聴器への支援、その他の日常生活機器などの福祉助成がえられるように等々、啓発と制度を結び付けて、あつという間の学習だった。

気になったことが一つあった。

高山さんの手話の読み取り通訳者が 4 人。司会進行役はみみずく会の会員。司会者がマイクを持ち司会を始めようすると、通訳者が出てきてマイクを取り、司会者に手話をと促す。仕方がないので司会者は拙い手話で…。失礼だが、司会者はしゃべるのに必死だから当然手話はおろそかになる。つまり司会者の声は高山さん、いや会場にいるろう者にも半分くらいしか届いていないことになる。通訳者の情報保障はだれのための保障？会場にいる健聴者のために高山さんの訴えを保障はしたが、ろう者に対する情報保障にはつながらなかったのではないかと…。これも「レインボー3」学習会の実践学習の一つかもしれない。

南支部 持田隆彦

京都市手話学習会「みみずく」目的

手話を学んで、ろうあ者の良き友となり、すべての人に対する差別や偏見をなくしていくために努力し、その活動を通じて私たち自身も向上していく。



伏見支部 忘年会

みみずく伏見支部 2023 年の忘年会を 12 月 15 日(金)に開催しました。お店は山科区にある『和ダイニングー旦』です。13 人の参加者(ろう者 5 人、会員 8 人)でした。

3つの席に分かれてでしたが、美味しい料理にみんな満足しながら、料理一つ一つの単語の手話表現を教えてもらい、それぞれの好きな飲み物に感心したり、話題も広がり、手話べりが弾みました！

店主さんも、一品一品を説明する時に手話は？と聞いてくださり、帰る時も笑顔で『ありがとう』とご夫婦共に、手話でお見送りしてくださいました。

新しく入会された方々は、勉強熱心で、楽しく会話を楽しみ新しく覚えた単語に喜びの表情でした。

ろう者の方々には、いつもスムーズいかず、表現や読み取りに時間がかかっても何回も繰り返しお話ししてくださり、丁寧に教えてくださり感謝です。

もっとスムーズに会話ができるよう 2024 年の忘年会は更に会員が増えて、全員参加ができ、会話がもっと飛び交う会を想像し、楽しみです。

ありがとうございました。



伏見支部 平尾千鶴子



西京支部 クリスマス会

2 月 24 日(日)午後 1:30~3:30 境谷会館

参加人数:火曜11人、木曜 9 人、聴障協 7 人、合計 27 人

各テーブルでケーキ、ジュース、お菓子を食べながらワイワイガヤガヤ楽しくお手話べり。

恒例の出し物:聴障協は「ジェスチャー」火曜は手話劇「あわてんぼうのサンタクロース」木曜はゲーム「あれ」を目指してキャッチ輪投げ、みんな必死にキャッチしました。

その後はお待ちかねのプレゼント交換です。どのようなプレゼントが当たるのか？とても楽しみ！当たったプレゼントを開いて、皆で見せ合い盛り上がりしました。

とても楽しいクリスマス会でした。

西京支部(木曜) 天野啓子





上京支部 クリスマス会

12月23日、くらしの工房にて、聴障協・みみずく夜の部・昼の部ぺんぺん草合同のクリスマス会が行なわれました。参加人数は19人（聴障協6人、みみずく13人）でコロナ前に比べて少なかったのですが、4年ぶりに開催できたことに皆で喜びました。

皆さん楽しみの上京支部恒例のマジックショーを初め、ゲームや皿回し・南京玉すだれ等が披露されました。

中でも良かったのが、聴障協の方が民話の一人語りをしてくださったことです。むずかしかったけれど、皆読み取ろうと真剣でした。

久しぶりのクリスマス会！今年は今までとちょっと違った内容で盛り上がりました。

楽しかった～(^_^)



上京支部ぺんぺん草 岡本值得子

中京支部 新年交流会



2024年1月12日 13:00～15:00

中京昼の部の新年最初の例会は、聴障協の方達と共に昼の部による工夫を凝らしたゲームをして楽しんでいます。



ゲームを楽しんだ後は、お菓子とお茶を頂きながらフリートークで交流を深め、一年の始まりにふさわしい例会をしています。

今年も健康で元気に過ごせますように。

昼の部一同、聴障協の方と元気に頑張ります。

会員16名、聴覚障害者協会4名計20名の参加がありました。

中京支部昼の部 岡田智子

右京支部 クリスマス会



右京支部では、年末最後の例会でクリスマス会を開催しました。

お寿司、ケーキ等を食べつつ、手の感覚だけで物を当てるゲーム「箱の中身はなんだろう」をしました。傍から見ると簡単そうですが、やってみると難しい。布に印をつけるローラー（ルレットというらしい）、油切り網（定食屋で見たかも）、プーさんのぬいぐるみ（色がないと高難度！）など…工夫を凝らした問題の数々。面白かったです。大変楽しい例会納めになりました。



右京支部 高瀬るみ子

山科支部

お楽しみ会

12月13日の暖かな午後“お楽しみ会”が開催されました。

オープニングは優雅な生け花。春を思わせるような色とりどりの洋花が素敵な白い花器に映えます。次々と披露される出し物はどれも素晴らしく見応えがありました。

わたしは手話が全くできない初心者で入会し、8ヶ月経った現在も???なのですが、手話は手だけじゃなく、顔の表情でも読み取れるのが利点ですね。

手話一人芝居では、表情と体全体で表現される巧みさで何となく内容が掴めましたが、手話の部分はまだまだ解らずで、もっと勉強をしなければと思いました。

ギターに合わせて久し振りに歌い、韓国の太鼓に合わせて踊るチャンゴも初めて見ました。ろう者はその太鼓の振動を手で触って、音を感じられているのでしょうか。

体操で身体と脳をほぐし、童謡クイズで遠い記憶を掘り起こし、マジックでは器用さに驚きましたが、何よりの感動はご高齢の方の趣味の多さと深さでした。何事にも好奇心を持たれチャレンジされる姿勢は若々しく頭が下がりました。

わたし達学習部は、一寸法師の紙芝居を手話でしましたが、指がこわばり滑らかに動かせなかったけど、とっても楽しい会でした。



山科支部 昼の部 寺田浩美



南支部 クリスマス会

2023年12月15日、クリスマス会が開催されました。(聴障協5人、みみずく8人、子ども5人)

私はまだサークルに入会し、1年と少しなのでこの会が、コロナ禍以降久しぶりだと聞きました。

当日、私は手話ができないなりに司会のお手伝いさせていただきました。全く役に立てていなかったと思いますが、身振りと回りのみなさんの助けと、温かい目とご理解でなんとか乗り越えることができました。

クリスマス会の内容は、チームに分かれてのゲームとケーキのデコレーションコンテストです。ケーキのデコレーションは、ろう者に審査してもらい、その後みんなで食べ、最後にプレゼント交換をしました。



盛りだくさんの内容なので、進行もスピードアップしてバタバタと時間がすぎましたが、お子さんから大人までみなさん楽しそうだったので、良かったと思います。

今年も、皆さんに喜んでもらえるクリスマス会ができればいいと思います。

南支部 荻野志穂

上京支部40周年企画 大和郡山へ行こう！

2022 年、上京支部は 40 周年を迎えました。1 年遅れとなりましたが、40 周年企画として上京の皆さんでお出かけする取り組みを検討していました。その時、聞こえない方がボランティアガイドの資格を取得された記事を見て、今回の企画「大和郡山市に行こう！」を決めました。

2023 年 12 月 16 日(土)、参加者は 19 人(みみずく 11 人、聴障協 8 人)でした。



当日、近鉄が事故で止まるというアクシデントがあり、開催が危ぶまれたのですが、JR を使って現地に行き、ボランティアガイドの方にも臨機応変にガイドコースを変更して対応いただきました。午前は城下町巡りをしました。要所となるところで町の歴史や特徴などを詳しく説明していただきました。午後は小雨が降ってきましたが、郡山城跡を回りながら紹介していただきました。

ろうガイドの方から手話で説明していただき、同じボランティアガイドの方に読み取り通訳をしていただいたので、手話が読み取れない方にも、理解できて良かったと思います。

詳しく大和郡山の歴史などを学ぶと共に、手話でのガイドはとても魅力的でした。移動間や休憩時に、みみずく・聴障協の交流もできて充実した取り組みができました。



上京支部夜の部 渡辺久美

「第 40 回 近畿手話通訳問題研究討論集会」に参加して

12 月 10 日、京都アスニーにて近通研が開催され、近畿各地から 286 人が参加しました。全体集会の後、私は第 1 分科会の「手話を学ぶ人を増やそう!」に参加し、京都府 U35 三団体として、活動内容のレポート報告を担当しました。取り組み内容の報告が珍しかったようで、多くの質問が寄せられた後、手話を学ぶ場に関する課題などの現状報告が、参加者から寄せられました。

また来年には、「第 58 回全国手話通訳問題研究集会・サマーフォーラム」が京都で開催予定です。手話サークルの一員として、また今後も関わって行けたらと思いました。

分科会途中からは保育要員を担当しました。保育があることで、子育て世代が参加しやすくなることは、とても大事なことだと感じました。

※京都府 U35 三団体 ①京都府聴覚障害者協会青年部 ②京都手話通訳問題研究会 ③京都府手話サークル連絡会 に所属する概ね 40 歳以下のメンバーが集まった団体をいいます。

左京支部 中村わかな

第 50 回耳の日記念集会に参加して

昨年初めて耳の日記念集会に参加しました。

今年はリモートの昨年と違って、目の前で舞台上の動く人々とお会いできて、嬉しく思いました。手話劇も太鼓のパフォーマンスも素晴らしかったです。

最後の抽選会の時に、耳の日集会に限らず、他の集まりでも、当たった方を壇上に呼んで、時間がかかったりしますが、上位の人以外は当たった人がその席で挙手、そこに係りの人が賞品を届けて

くださるというのが、新鮮でした。高齢だったり、身体に不具合のある方も、抽選に楽しく参加できるなぁと思って印象に残りました^^

また、会場が階段状だったので、前の方から振り返れば知り合いをすぐ見つけることができたのも良かったです。

中京支部 山本絵里



京の手話の体感学習会に参加して

京都市聴障協と手話学習会「みみずく」による毎年恒例の「手話体感学習会」が2月18日10時からありました。

車折神社集合。参加者は31人でした。平安末期の宝寿院を起源として後、車折神社になったということでした。芸能の神様天宇受売命(あめのうずめのみこと)が祀ってあるため、境内一円芸能・芸術関係の人が奉納した朱色の玉垣が並び赤い壁ができていました。また5月の第3日曜日には車折神社の神事、三船祭が大堰川で行われます。

続いて鹿王院に移動しました。鹿王院ではご住職が案内してくださいました。禅宗寺院だけあって坐禅の話もされました。

昼食後、手話研修センター地下1階でグループトークをしました。3グループに分かれて、京の手話(今回は嵐電の駅名)について話し合いました。地名や駅名の由来などを教えてもらいました。最後はグループ代表者がそれぞれのグループの様子を発表して16時頃に終わりました。手話学習の他に交流もできて楽しい一日でした。

手話サークルつくしの会 藤川初治



能登半島地震 支援

1月1日に発生した能登半島大地震は大きな被害をもたらしています。多くの聴覚障害者や手話の関係者も被災されているニュースを目にすると、居てもたってもいられない気持ちになります。阪神淡路大震災を経験した私たちにとっても、災害は他人事ではありません。被災された皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。

現在、全日本ろうあ連盟や、府ネットを通して救援のための支援金等の呼びかけがされています。私たち「みみずく」会も微力ながら協力させて頂きたいと思っております。みみずく会員の皆様のご協力の程よろしくお願いいたします。

京都市手話学習会「みみずく」会長 石神 博行



一般社団法人全日本ろうあ連盟
聴覚障害者災害救援基金

<https://www.jfd.or.jp/noto-eq2024>

行事予定

・ ・ ・	第5回京都府 耳のことフェスタ	3月10日
・ ・ ・	みみずく全体研修会	3月17日
・ ・ ・	近畿手話サークルフォーラム	3月24日
・ ・ ・	京都ろうあ者大会	4月28日
・ ・ ・	みみずく定期総会	4月29日

編集後記

1963年9月1日、みみずく会が誕生しました。みみずく会が結成して60年を迎えた記念すべき年に、機関紙部として関りが持てて感謝しております。バタバタした1年でしたが、無事終了してホッ!!ありがとうございました。

持田隆彦

2023年度も「みみたん」を4回発行できてホッとしています。皆様の寄稿のお陰と感謝しております。新型コロナウイルス感染症も5類に移行されて以降、行事が復活したり、各支部の交流会も実施されるようになり、楽しい報告を紹介できて嬉しく思います。

これからも充実した機関紙がおくれますように、皆様の投稿をお待ちしております。

村田朱美